

ある数日間の出来事

自転車に乗った風が
改俊の涙を流しながら坂を駆け上がる時
それを目にしたものたちは問い掛ける

「新たな憧憬に満たされるだろうか…」

その風の通り過ぎたあとも
普段どおりにコオロギは鳴き
いつものとおりに花は開いた

しかし、誰もがふと遠くを見やり
思いをはせるときの
小さな時間の停止が生まれた

「新たな憧憬に満たされるだろうか…」

あるときは渡り鳥がこう話した
「紫の国では疫病で幾多の命が奪われた」と

またあるときは雲がこう話した
「オレンジの国では洪水に覆われた」と

そのたびに、虚空に視線はさまよい
誰もが呟いた

「新たな憧憬に満たされるだろうか…」

誰もが、それほどに大気とは微妙なものと知っていた

数日の後
遠くから来る気配に
誰もが同時にびたりと全神経をそばだてた

風は再びやってきたのだった
何と今度はスケートボードを漕ぎながら
新たな憧れに目を輝かせながら

それを見たものたちは
ほっと息をつき、言ったものだ
「やれやれ、何とか今回も救われたわい」と

(2001.9.18)